

平成30年度 大田区立入新井第二小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

学校規模…児童数 574名 学級数 18学級 サポートルーム(特別支援教室)1拠点
 目指す学校像…「学力・心・身体がバランスよく成長している健康な子供が育つ学校」
 校内研究テーマ…「どの子にも、わかる、わかる、できる喜びが感じられる授業をめざして～体育におけるユニバーサルデザインと個別の支援の視点を取り入れて～」

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4「読書や読み聞かせ等、本に触れることが好きである」と答える児童の割合が90%以上である。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3「読書や読み聞かせ等、本に触れることが好きである」と答える児童の割合が85%以上である。
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	2「読書や読み聞かせ等、本に触れることが好きである」と答える児童の割合が80%以上である。
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1「読書や読み聞かせ等、本に触れることが好きである」と答える児童の割合が80%未満である。
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4「あいさつや右側歩行等、学校のきまりやルールを守って生活している」と答える児童の割合が 85%以上である。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3「あいさつや右側歩行等、学校のきまりやルールを守って生活している」と答える児童の割合が 80%以上である。
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して積極的に対応する。	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	2「あいさつや右側歩行等、学校のきまりやルールを守って生活している」と答える児童の割合が 75%以上である。
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議を実施する。	1「あいさつや右側歩行等、学校のきまりやルールを守って生活している」と答える児童の割合が 75%未満である。
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	年間計画に従って人権教育を推進するとともに、「地球と考える人権展」を通して、各学年の取り組みを精励し、学校と地域・家庭で連携して人権教育を推進する機会とする。	4「朝の校庭開放・ふれあいタイムでの運動・遊びを楽しみにしている」と答える児童が、90%以上である。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に對し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3「朝の校庭開放・ふれあいタイムでの運動・遊びを楽しみにしている」と答える児童が、85%以上である。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2「朝の校庭開放・ふれあいタイムでの運動・遊びを楽しみにしている」と答える児童が、80%以上である。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1「朝の校庭開放・ふれあいタイムでの運動・遊びを楽しみにしている」と答える児童が、80%未満である。
		朝の校庭開放・ふれあいタイムで行いながら児童の運動や遊びへの意欲を高めるとともに、身体活動や時間確保し、研究を通して体力の向上に努める。	
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4「学校生活や教室でのルールやきまりが分かりやすい」と答える児童の割合が、90%以上である。
		授業改善セミナー等の研修成果を定かし、主任教師が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3「学校生活や教室でのルールやきまりが分かりやすい」と答える児童の割合が、85%以上である。
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	2「学校生活や教室でのルールやきまりが分かりやすい」と答える児童の割合が、80%以上である。
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1「学校生活や教室でのルールやきまりが分かりやすい」と答える児童の割合が、80%未満である。
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	種にでもわかりやすい授業の実践に向けて、授業のユニバーサルデザイン化をめざして体育の学習を通じた校内研究を推進し、授業改善に努める。	4「学校は教育活動を公開する機会を多種に設けている。」「保護者アンケートで、「あてはまる」のA評価が50%以上である。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の教室等の具体的な資料を身構して、詳細に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3「学校は教育活動を公開する機会を多種に設けている。」「保護者アンケートで、「あてはまる」のA評価が45%以上である。
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	2「学校は教育活動を公開する機会を多種に設けている。」「保護者アンケートで、「あてはまる」のA評価が40%以上である。
		家庭・地域と連携した教育の推進を目指して、多様な学校公開を行うとともに、保護者や地域の施設・団体と連携した学習・行事を計画・実施する。	1「学校は教育活動を公開する機会を多種に設けている。」「保護者アンケートで、「あてはまる」のA評価が40%未満である。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。